

トンチンカンな田ん

ある所に、やっこと語つこと何でもトンチンカンな男が
いだど。荷物つけた親父を引いだ馬が通んながったがとか、
おっかをんぶって赤ん坊をさした傘を見かけながったかな
どと聞いだりして、みんなを困らせ笑い者になつていだど。
ある時、よその村に出かけ、田の草とりしていだ人に声を
かけ「おれの連れだが離れちまった。年頃のぐりぐりした
目玉の、三十ばかりの縞の男をしょった風呂敷ふろしきが通んな
がったべか」と聞いた。なんだその話、と考えていたが
「そういえばさつき、目玉のぐりぐりした、年の頃三十ぐ
らいの男が、縞の風呂敷をしょって通ったが、そのことで
ねいのか。道を聞かれたので教おせでやった。」というど、
その男「間違えと氣違えちやあるもんだ、うぬが尻おれえ
なめろ」といい残して通り過ぎたと。

もう一つ、こわがり同志の話。

ある所に、よくよくのこわがりがいだど。田んぼもろく
に手入れをしねいので米がだんだんとれなくなつちまった。
それでは困んだらうとは普通の人たちの考え、飯を焚く

鍋を洗あねいで使つていたら、中がだんだん小ぢやくなつ
て米が少なくて済むようになったというから、こわがり屋
にはちようどだだ。

弁当持ちでよそへ行く時、ひるが過ぎて腹がへった。牡
丹餅だんもちを背負しよつていんだが、おろすのが厄介だから我慢して
歩いていっと、向こうから大口あいて来る人があつた。口
あいていんのだから、腹がへつていんだらうと思ひ、半分
別けしつことにしておろしてもらおうと、出会つた所で声
をかけだど「お前さん口をあいているが腹がへつてんでね
いのが、おれ牡丹餅を背負つてんの半分やつからおろしく
んにえか」といったら「とんでもねい、ひとの牡丹餅おろ
すどころでねい、おら、笠のひぼ（紐）がゆるんだが、し
ばるのが厄介だから、大口あいてアゴで締めてるんだ」と
いって通り過ぎたど。どっちもこわがり同志の話だない。